

『おくすり手帳』を利用していますか？

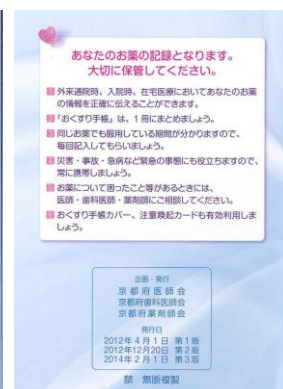
舞鶴共済病院：薬剤科

皆さん、病院や薬局でお薬をもらわれたら、何というお薬か？どんな効き目があるのか？副作用にはどんな症状がでるのか？など様々な疑問をお持ちになると思います。病院でも薬局でも薬剤師がお薬をお渡しするとき、説明書などを利用してなるべくお話しするように努めていますが、覚えるのは大変ですね。ましてやお薬の名前は馴染みがないうえに、似たような名前があったり、最近では2種類の成分が混ざり合ったお薬も使われるようになっていきますので複雑です。お薬の名前を憶えていなくても、いつも診察していただいているお医者さんやいつもお薬をもらっている薬局さんはあなたの治療歴がわかるので問題ありませんが、いつもと異なるお医者さんや薬局さんにかかるときは必ず「いつも飲んでいる薬はありますか？なんというお薬ですか？」と聞かれますよね。すると「えーっと、白い血圧の薬」とか「丸い形の痛み止め」などとお答えしていませんか。

お医者さんが飲んでいるお薬の内容を知ることは、現在どんな病気を治療中であるのか、今回の症状はそのお薬と関連はないか、自分の処方するお薬と重複（同じ効果が重なること）や相互作用（お薬同士の相性）に問題はないか判断するのにとても重要なことなのです。また薬局の薬剤師さんも同様の理由で現在飲んでいるお薬の情報が必要となります。こんなときとても便利なのが『おくすり手帳』です。手帳にはどんなお薬を、いつから、どんな飲み方で飲んでいるのかが一目で分かります。『おくすり手帳』はあなたと医療機関との連絡帳となります。

【おもて】

【う ら】



では、『おくすり手帳』をどれくらいの方が利用されているのでしょうか？

昨年舞鶴市内の病院や薬局の薬剤師は患者さんが入院されたときや薬局に処方箋を持ってこられたとき、『おくすり手帳』を持ってこられた方の人数を調べました。その結果、3割以上の方が、『おくすり手帳』は持っているのに持参されていませんでした。その理由の多くは「薬が変わらないから」でした。でも薬はいつ変更になるかもしれません。常に新しい薬の内容が記載してある手帳にしていきたいです。また、『おくすり手帳』はこんな使い方もあります。

たとえば・・・

- ・お薬を服用していて気になる症状を記録しておき、診察時に提示する。
- ・過去に起こった副作用やアレルギー歴を記録しておき、必要な時に提示する。
- ・何らかの理由で余ったお薬の錠数を記入し診察時に提示する。

などあなたとお医者さんとの連絡帳としても便利です。

このように『おくすり手帳』はお薬を正しく、安全に使用するのに必要なものです。病院、薬局に行かれるときはぜひお持ちください。